

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	サベージ・パール	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：サベージ・パール**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

研磨剤 番

**比較対照ボール：サベージ・ソリッド**

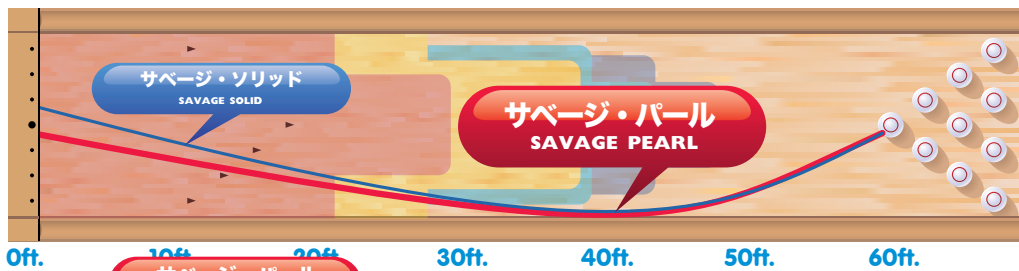
フレアーの幅  インチ

表面加工

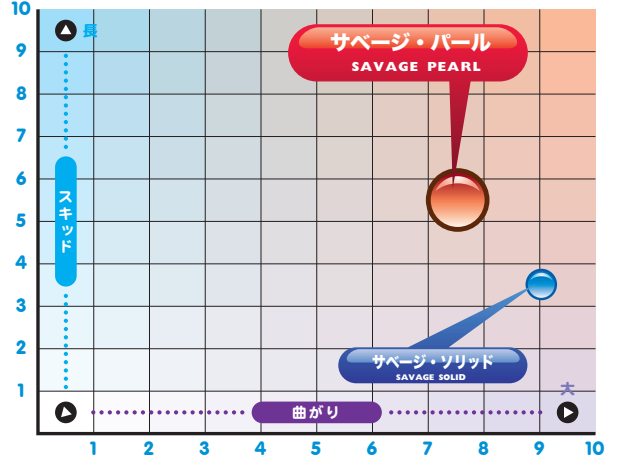
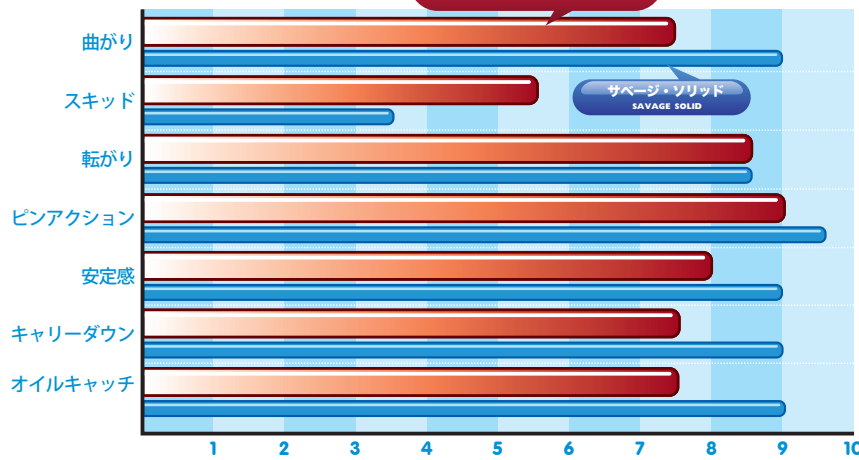
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

研磨剤 番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

コロンビア史上最もオイルに強く、バックエンドでも大きなネジレを持続できるパフォーマンスとして発売されたSAVAGE SOLID。Solid素材でみられた手前から繰り出される圧倒的なキャッチ力をPearl素材でクリアなスキッドを出し曲がりのイメージをバックエンドに集約させる試みはSABARからSABAR PEARLにも見られたように、フランチャイズのコンディションでは”強めのPearl素材”がしっくりくる傾向があります。今回のSAVAGE PEARLは、今年のジャパンオープンでも多くの契約プロが持ち込んでいた10月下旬発売のRACE C300と同等のカバーストックを搭載し、コアの特性を活かしてRACE C300よりもボールの起き上がりの強さと奥の動きの強さを求めました。

テストングではSAVAGE HybridやSABAR PEARL、RACE C300などと比較しましたが、Pearl素材だけで検証するとこのSAVAGE Pearlが一番オイルに強く、それでいて一番アグレッシブに感じました。RACE C300とは同じカバーですがコアの影響がリアクションにハッキリ表れていて、動き出しはRACE C300よりやや早く感じます。バックエンドの動きも柔らかくキレ込むRACE C300に対し、SAVAGE PEARLは動き始めてからの軸の移動が急激に起きるように角度がでるイメージがありました。今年のジャパンオープンでは私の知る限り多くの方がRACE C300も持参し、その他では久保田彩花プロがSAVAGE SOLIDを終盤まで使っていましたし、和田秀和プロがSABAR PEARLを中盤から後半使用していました。多くの方がコロンビア製品を持ち込む姿を目の当たりにし、ABSが取り扱う製品でもコロンビア製品が多く使われるようになってきているということは、そのパフォーマンスがライバル製品と拮抗しているということ。日本のユーザーが使いやすい強めの素材のPearlバージョンですので、いろいろな場面で使用できるでしょう。

### 特記事項

**Pearl素材でもここまで進化したという実証がリアクションとして表れています。オイルに弱いPearlは今や昔の話。スキッド・キャッチ・バックエンドリアクションとバランスの取れた性能をお試しください。**